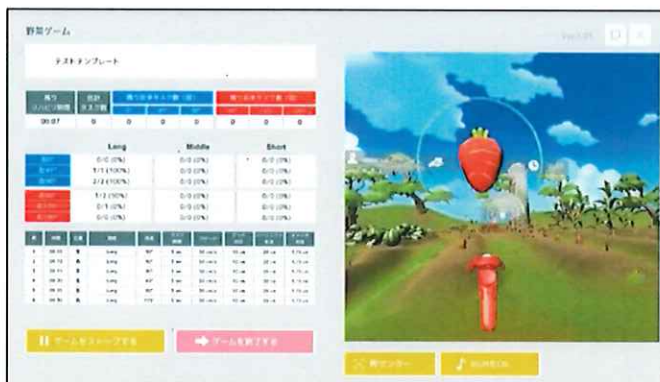


日本初、特別支援学級の障がいがある児童へのサポート VR リハビリテーション医療機器「mediVR カグラ」を導入 VR を活用した新しいリハビリ支援により小学校等でのサポート開始

保育所等訪問支援とて を運用する株式会社リハ・イノベーション(北海道札幌市、代表取締役:野崎円)は、株式会社 mediVR(本社:大阪府豊中市、代表:原正彦)が提供する VR(仮想現実)を活用したリハビリテーション医療機器「mediVR カグラ」を保育所等訪問支援のリハビリテーションプログラムの一部として、小学校等に初めて導入しました。保育所等訪問支援とは、障がいのある子どもが保育所や学校などで集団生活を送るための支援をおこなうサービスです。児童福祉法に基づく障害児通所支援サービスとして、2012 年(平成 24 年)の児童福祉法改正で創設されました。障がいのある子どもが集団生活をする際には、さまざまな困りごとが生じることがあります。保育所等訪問支援では、専門知識を持った支援員が保育所や学校、放課後児童クラブ(学童)などの「集団生活の場」に訪問し、子どもの様子を観察しどのようなことに困っているのか、その原因はなにかを分析します。そして、困らなくて済むための方法を一緒に考え、子どもが楽しく快適に過ごせるように支援します。



左: mediVR カグラを使った支援の様子



右: 子どもに見えている実際の VR 画面。「野菜ゲーム」「水戸黄門ゲーム」など 5 つのゲームを揃えている。

導入の背景

特別支援学級において、からだやところに支障のある子どもは様々な脳の特性を有しており、障がいや不適応などによって特に学校をはじめとした集団での生活にストレスを抱えているとされています。そこで弊社では、学校等の特別支援学級での個別的なサポートの必要性を感じ、これらの課題を解決するために本機器の導入を決めました。mediVR カグラは一人ひとりに合った難易度を設定できるだけでなく、自分の手や身体が見えない VR 環境を利用することで通常的环境では引き出すことが困難な体の動きを引き出すことが可能であり、より個々の児童に適したリハビリテーションが行えると考えております。また、座って行うため安全にトレーニングが行え、思わずスイッチを押したくなるように、子どもたちのやってみたい！を引き出す仕組みでたくさんの子どもの使用可能で様々な適応と効果があります。姿勢の保ちやすさや歩きやすさ、運動の不器用さの改善などに対してもアプローチできます。

mediVR カグラについて

脳疾患を数多く見てきた医師の原正彦氏が、大阪大学との産学連携により開発した医療機器です。「VR 空間上に出現する的方向に向かって身体や腕を左右交互に動かす、上から落ちてくる野菜をキャッチする」という一見ゲームのように見えるリハビリテーションですが、神経科学、行動科学の知見と 20 種以上の特許技術に基づいて開発されています。本機器を用いた支援によって歩行やバランスなどの運動機能や認知機能、日常生活動作の改善が報告されており、幅広い疾患や障害への応用可能性に期待が寄せられています。

「姿勢が以前より良くなった」「目の使い方が変わってきた」などと保護者からの声も聞かれています。

報道関係の皆様、学童期の医療・福祉の活性化のためにも是非、取材をお願いいたします。

<問い合わせ先> 株式会社リハ・イノベーション 保育所等訪問支援とて

〒063-0033 北海道札幌市西区西野 3 条 10 丁目 9-23 担当: 野崎 (携帯: 080-4049-8440)

TEL: 011-215-7721 FAX: 011-215-7961

e-mail: houmon-tetote@order-insole.com

HP: <http://www.order-insole.com/xhoikutetote/>